

2025 年度市川市青少年代表団

樂山市派遣生文集



【2025 年 8 月 17 日～23 日】

市川市国際交流協会

日 程 表

月 日		行 程	
1 日 目	8 月 17 日 (日)	午後 成田国際空港出発 四川航空 3962 便 (3U-3962) 夜 成都天府国際空港到着 成都空港悦享ホテル泊	【ホテル】
2 日 目	8 月 18 日 (月)	午前 パンダ基地視察 ～歓迎昼食会～ 午後 武侯祠視察 夜 樂山第一中学校でホストファミリーと面会交流	【ホームステイ】
3 日 目	8 月 19 日 (火)	午前 根書博物館視察 樂山大仏景勝地視察 午後 学校交流活動 (樂山第一中学校) ※日本文化紹介①～歌を披露 夜 歓迎夕食会	【ホームステイ】
4 日 目	8 月 20 日 (水)	午前 学校交流活動 (馬辺中学校) ※日本文化紹介②～歌を披露 午後 刺繍、銀飾り作製視察	【ホームステイ】
5 日 目	8 月 21 日 (木)	全日 峨眉山景勝地視察	【ホームステイ】
6 日 目	8 月 22 日 (金)	午前 表敬訪問 郭沫若記念館視察 午後 ホストファミリーとの自由活動 夜 成都空港悦享ホテルへ移動	【ホテル】
7 日 目	8 月 23 日 (土)	午前 ホテルチェックアウト 成都天府国際空港出発 四川航空 3961 便 (3U-3961) 午後 成田国際空港到着	【自 宅】

派遣生感想文

「樂山市で得た成長の一步」

石田 栞茄

私にとって国際交流とは、自分の視野を広げ、固定観念を壊し、新しい考え方や生き方を学ぶ絶好の機会、すなわち自己成長の機会だと考えています。なかでも私は、中国という多様な文化が共存する社会に強い関心を抱いてきました。そうした思いから、この夏に中国派遣プログラムへ応募し、市川市と深い交流のある四川省樂山市を訪れる機会を得ました。そこで過ごした日々は、私にとって想像以上に学びの多いものであり、忘れられない経験となりました。

樂山市について私は、事前学習の際に「樂山大仏で有名な歴史ある街」という程度の知識しかありませんでした。しかし実際に訪れてみると、そこは千年以上の歴史を今に伝える文化が息づき、人々の温かな暮らしが広がる場所でした。街に到着したとき、笑顔で迎えてくれた現地の方々の姿は、とても印象的で安心しました。

訪問中、まず、印象に残った体験は、中国の自然のスケールを目の当たりにしたことです。樂山市周辺には雄大な山々と豊かな大地が広がっており、その景観は日本で見慣れている自然とはまったく異なる迫力を持っていました。川の流れ一つをとっても、力強く大地を切り開くような壮大さがあり、自然が人々の暮らしや文化と深く結びついていることを実感しました。

食文化との出会いも強く印象に残っています。四川料理は想像以上に辛さが際立っており、慣れない味付けに驚かされることもありましたが、同じアジア圏で中華料理は馴染みがあると思っていましたが、実際には地域ならではの独特な風味があり、「知っているつもり料理」との違いを新鮮に感じました。また、食事のマナーにおいては、少し料理を残すのが自然で、全てを食べきると次々に料理を取り分けてくださる場面がありました。その様子から、人々のもてなしの心や温かさを強く感じると同時に、文化によって食卓のルールが異なることを学ぶことができました。

そして、今回の訪問で特に印象に残ったのは、言語の壁でした。出発前は「英語が通じるだろうから、中国語は最低限で大丈夫だろう」と考えていました。しかし実際に現地に行ってみると、英語表記は思った以上に少なく、現地の学生以外では英語を話せる人はほとんどいませんでした。これまで私は、英語が母国語の国への留学経験しかなく、英語を使えば意思疎通ができるという安心感を持っていました。しかし今回は初めて、言葉が通じないことによる戸惑いや不便さを強く実感しました。それでも、表情やジェスチャー、翻訳アプリを交えて必死に伝えようとする、相手も笑顔で応えてくれ、互いに少しずつ理解し合える場面もありました。その時、「言葉が通じなくても気持ちは伝わる」という温かい体験をする

と同時に、やはり言語を学ぶことの重要性を改めて感じました。この経験を通して、今後はさらに中国語を含めた言語学習に真剣に取り組みたいと強く思うようになりました。

これらの経験を通して、中国と日本の文化、食習慣など、様々な違いを体感することができました。また、中国の高校生と直接交流し、多文化的な社会で育った人々の価値観や日常生活に触れることで、より実践的な理解を深めることができました。今回の訪問で得た学びを、これからの自分の進路や生き方に活かしたいと考えています。私は、将来、国や文化の違いを越えて協力し合える社会の実現に貢献したいという思いがあります。そのためには、まず自分が「違い」を恐れず、柔軟に受け止められる人間に成長する必要があると感じました。樂山市での経験は、その第一歩を踏み出す大きな力となりました。

最後に、樂山市での体験は、私にとって単なる海外訪問ではなく、自分自身を大きく成長させる学びの旅でした。今回の訪問で得たつながりを大切にしながら、これからも積極的に国際交流に取り組み、多文化を理解し合える関係を築いていきたいと思います。そして、今回の経験を糧に、将来は国際社会に貢献できる人間へと成長していきたいです。



ホストファミリーとの集合写真



樂山大仏



樂山名物の火鍋



中国の民族衣装

「樂山市への訪問を通じて」

河野 ななみ

私が樂山市へ訪問して、何よりも驚いたのはその食文化です。やはり一番の特徴はその辛さで、辛いものが苦手な私はホストファミリーが「これは辛くないよ。」と教えてくれたものを食べていましたが、その8割は辛かったです。日本では、いわゆる激辛料理にしか直接入っているイメージはない唐辛子ですが、樂山市では何度も目にすることとなりました。また、樂山市には屋台などの路上販売が非常に多く、夕食後に外出し軽食を食べることがよくありました。そのため、日本に比べ夜の樂山の街は人通りが多く非常に活気ある印象を受けました。それから、なんといっても特徴的なのが「お茶」です。樂山市への訪問で私は様々な場所で食事を摂りましたがお茶の種類は全て異なり、一回一回の食事がお茶との一期一会の出会いでした。特に、日本ではなかなか目にすることのない花茶と呼ばれる、ティーポットの中で花を咲かせるような種類のお茶は見た目も美しく味も上品でとても美味しかったです。

普段の生活では、英語を介して意思疎通していましたが、やはり母国語ではない言語を話す者同士、伝えたいことがうまく伝わらない感覚がお互いにあるようでもどかしい気持ちになることもありました。それでも「自分の力で伝える」ということを意識して意思疎通を諦めないことが大切だと今回の派遣を通じて学びました。また、「この言葉は日本語ではなんて言うの？」というような質問を投げかけてくれたり、逆も然りでお互いの母国の言葉を教え合い知することは初めての経験でとても楽しかったです。中国と日本は古くから親交があることもあり、同じ意味の発音で似ている単語があるのも新たな発見でした。そして何よりも相手が自分の母国語を使ってくれることが本当に嬉しかったので、私も挨拶だけでも中国語を使ってみたり、その他日常会話で積極的に中国語を取り入れてみました。そうすると嬉しそうに中国語で返してくれて、日数が経つにつれ言語の壁というものが薄くなっていくことを感じました。

今回の派遣で私は、「樂山の人たちと仲良くなる！」ということを目指して日本を旅立ちました。少しの中国語と英語しか話せないけれど、積極的に話そう、と決めて現地で実行しました。最初こそ緊張があったものの、ホストファミリーをはじめとする私たち派遣生を迎えてくれる人たちは皆さん本当に温かくて嬉しくなりました。だからこそ自分も頑張ろうと思えたし、もし自分が今度受け入れる側になったらこのように温かく迎えようと思います。しかし、イ族の小学生の皆さんの元へ訪れた時、相手は中国語しかわからない、自分は会話をできるほど中国語を話せない、という状況でした。今回の派遣で一番「言語の壁」を感じた瞬間でした。それでも相手のジェスチャーを見て、なんとなく聞いていると相手の言っていることがわかるような気がしました。言葉が通じない同士でも会話はできる、と実感しました。イ族の小学生の子たちと話せて本当に良かったと思います。また、日本にはほと

んど民族区分のようなものはないので、イ族の方たちの伝統衣装やダンスなどの文化に触れられたことはとても新鮮でした。

私は今回の経験を活かし、学内外問わず自身の経験をまだ留学や海外へ行くことに一歩踏み出せずにいる中高生に共有することで、海外で一生の思い出を作って欲しいと思います。今回の派遣はコロナ明け初ということもあるので、これからの世代を担っていく中高生に、自身の経験を語ることで海外への渡航のハードルを下げ、私がそうだったように、現地の人と関わるとともに異文化を体験した新たな視点だったり価値観だったりを持つことができるような経験をして欲しいと思います。また、日本へ来てくれた人たちには、温かく迎え入れるとともに日本の文化を最大限体験できるようなサポートを行いたいです。

樂山市への派遣は私にとって一生に一度のかけがえのない思い出になりました。市川市青少年団代表として樂山市へ訪問することができ、本当に良かったです。



ホストファミリーとの食事



子どもたちみんなで撮影



屋台で売っていたジャスミンの生花
すごく良い香り



ホストファミリーと最後の夜ご飯
辛さへの配慮かつ私の好物まで入れて
くれてとっても美味しいご飯でした

「自分の肌で感じる」

佐竹 志音

訪問を通して「自分の目で見て、感じる」ということの大切さを強く実感しました。現地の方々と生活を共にすることで、日本のTVやSNSだけではわからない、様々な文化や価値観、人情の深さを感じることができたからです。このように感じた背景には、現地での生活や交流を通じた様々な経験があります。出発前は、人生初の中国訪問だったので自分達を受け入れて下さるだろうか、という不安が大きかったです。しかし、到着した空港で、笑顔で手を振って下さった皆さんを見て、募っていた不安が期待へと変わっていったのを鮮明に覚えています。

滞在中には心に強く残るエピソードが沢山ありました。その中で、私が1番大変だったのが中国の日常生活の環境でした。日本と中国でこんなにも異なるのか、と驚く程で、1週間でやっと慣れてきたくらいでした。例えば、水回り面では、中国にはバスタブが無いのでお風呂に浸かるというものが当たり前ではなく、シャワーの横に和式のトイレがあるという光景が当たり前でした。トイレも、中国の下水道の関係で紙をそのまま流すことが出来ないで、紙専用のゴミ箱がありました。初めてのことばかりで、自分が水回りをすごく気にしてしまう性格なのもあったので受け入れるには本当に時間がかかりました。初めは不便と感じていましたが、自分に合うように工夫を行ったことで、快適に過ごせる方法を見つけることができました。この過程で、自分が日常的に当然だと感じていることも、誰かにとってみたら違和感がある場合があるということに気づきました。逆に、中国の日常習慣にも合理的な理由があるから今現在もその形であるので、ただ自分と異なるからという理由で拒否したり、否定するのではなく、理解しようとする姿勢が大切だな、と感じました。

同世代の方との交流でも、私にとってとても印象的でした。2つの学校を訪問したのですが、皆さんすごく歓迎してくださって、沢山の笑顔を見せてくれたことが嬉しかったです。中国文化体験やお披露目会を通して、中国の広大さ、民族の多様さ、改めて彼らも私たちと同じなのだ、ということを知ることができました。文化体験の美術の時間では、日本での藍染めのようなものや、書道に判子などを、同世代の子に教えてもらいながら行いました。初対面かつ言語が異なることもあって、緊張して話すのが大変でしたが、沢山おしゃべりして仲良くなりました！対話や体験の中で、基本的な価値観や感覚は意外と近いということに気付きました。お披露目会では、私たちは日本語の曲と中国語の曲を歌う機会がありました。歌詞の意味が伝わりますように、と想いをこめて歌いました。きっと伝わったと思います。終わってから、「とても上手で感動したよ！」「心に響いたよ。」と言ってくれて、言葉で表現できないくらいの喜びが心に押し寄せ、自然と口角が上がってしまいました。自分の歌が誰かの心に響いてくれてよかったし、音楽や人の思う心は国境を超えられることを学びました。

そして、やはり1番心に残ったのは「会話」です。互いに互いの言語がわからないので、ホストファミリーの同年代の子と妹さんとはほとんど英語で話していました。英語でしか気持ちを伝え合えないことに少しもどかしさを感じていましたが、相手が一生懸命理解しようとしてくれる姿を見て、人の心は美しいと感じました。英語を介して自分のことを説明したり、笑い合ったりした中で、改めて人と心を通わせる素晴らしさを思い出すことができました。ありがとう。そしてもっと自分の感情をありのままに表現できるように、言語勉強に励もうと思いました。

この1週間で皆さんに会えたことは私にとって大きな喜びであり、同時に多くの学びをもたらしてくれました。今度は私が持ち前の明るさとコミュニケーション能力で、誰かにかげがえのない経験や学びを贈りたいです！市の国際交流に積極的に参加し、今回の自分の経験を活かし、様々な人と会話を重ねて、視野を広げていきたいです。そして、日本と世界を繋ぐ架け橋になりたいと考えています。



中国のプリクラ



ホストファミリーと4人で!!



みんなで楽山大仏



初めてのご飯!!

「あの日、あの時、あの場所で」

佐藤 咲良

今回の旅を終えて、私は以前にもまして「英語」という言語が大好きになった。英語の利便性を肌で感じる事ができたからだ。現地では多くの中国人学生と交流をしたのだが、もちろん私は中国語を話すことができないし、彼らも日本語を話すことができないので、ほとんどの会話を英語で行った。どちらの学生にとっても第一言語ではない言語を使って話す、というのは、なんとも不思議な感覚だったが、伝えたいことが伝わったときや、共に笑いあえた時には感動すら覚えた。しかし私の英語力はまだまだ未熟で、どうしても英語での表現方法が思いつかないときも、もちろん多々あった。そういったときは翻訳アプリを使って会話をしたのだが、一つ気になる点があった。それはタイムラグが生じてしまう、という点だ。最近の翻訳アプリは高性能なので、言いたい文章を音声・テキスト入力すればあっという間に翻訳してくれる。しかし、それでもやはり、文章を入力する時間や相手が翻訳された文を読むためには、幾分時間を要する。そして、これはあくまでも私の体感なのだが、ラグが少ない英語での会話の時のほうが、翻訳アプリでの会話の時よりも話が弾んでいたように思う。私は英語学習が好きなのだが、心の隅では、「翻訳アプリを使えばよいのではないか。」「高精度な翻訳アプリがある時代に、どうして言語を学習する必要があるのか。」という疑念がずっと存在していたように思う。しかし、今回の旅を通して、ようやくその問いに対する自分なりの答えを見つけることができた。本当にうれしく思う。

また他にも、実際に現地に行ったからこそできた新発見もたくさんあって面白かった。例えば、中国ではトイレットペーパーが二種類ある。一つは、ティッシュペーパーみたいなタイプのもの(実際、ティッシュペーパーとしても使える)。そしてもう一つが日本と同じロールタイプのものなのだが、なんとこのトイレットペーパーは四重なのだ。日本だとダブルのトイレットペーパーでもフカフカ扱いだが、その二倍なので、桁違いにフカフカだった。しかも面白いのが、その超フカフカトイレットペーパーは、ホテルなどのとても環境整備がされている施設だけでなく、少し汚めのトイレなどでもたまに見かけるということだ。四重トイレットペーパーを見かけるたび、実は少しテンションが上がっていた。とにかく、こういったことは実際にその国に行ってみないと知ることができないことだと思う。このように、「旅行の意味」というものを再認識することができた。

私が中国で驚いたのは、なにもトイレットペーパーのことだけではない。果物の安さにもとてもびっくりした。ホストシスターによると、中国ではスイカ一玉が約 200 円で買えるらしい。街中では、スイカ売りのカート(?)をよく見かけた。派遣期間中は、果物をたくさん食べた。スイカ、メロン、ブドウの内、少なくともどれか一つは必ず食卓に並んでいたような気がする。実は私は、果物があまり好きではない。だが、「いい機会だし、とりあえず食べてみよう!」と思いスイカを食べてみたところ、みずみずしく、食感もシャクシャクし

ていて、とてもおいしかった。メロンも同様に、日本で売られているものよりも気持ち硬めで、甘さが抑えめだったので食べやすかった。

さて、私はこの「樂山市青少年派遣プログラム」に参加できたことを心から嬉しく思っている。それはただ単に、中国で有意義な一週間を過ごすことができたからではない。このプログラムを通じて、たくさんの大切な人と出会うことができたからだ。派遣生のみんな、ホストファミリーのみんな、樂山第一中学校のみんな。ただの他人同士に過ぎなかった私たちを引き合わせてくれたこのプログラムには、心から感謝している。この出会いを、これからも末永く大切にしていきたい。引率者の早坂さん、王さんをはじめとするこのプログラムの企画・運営に関わったすべての方々、黄さん、張くんをはじめとする中国でお世話になった方々、そして私の両親にあらためて感謝の気持ちを伝えたい。本当に、ありがとうございました。非常感謝！！

【追記】

タイトルの「あの日、あの時、あの場所で」は小田和正の名曲「ラブ・ストーリーは突然に」の歌詞の抜粋だ。私がこのタイトルにしたのには、実は二つの理由がある。一つは、ホストファミリーと車の中で一緒に歌った思い出深い曲だったから。そしてもう一つは、タイトルで抜粋した部分に繋がる歌詞、「あの日、あの時、あの場所で君に会えなかったら 僕は今でも見知らぬ二人のまま」というのが、今回の旅での一期一会をよく表していると思ったからだ。



夜餐！夜10時とか？くらいに皆で串料理を食べた！おいしかった！(^^)



歌の発表！「カントリーロード」と「正解」。緊張したけど楽しかった！



ホストファミリーのみんなとごはん
辛いけどおいしい火鍋



ついにお別れの日。みんなで大号泣
(´；ω；`)

「楽山で描き始めた未来図」

志村 遥

中学校を卒業し、高校1年生へと進学準備を進めていた3月、私は「今年の夏は違うことをしたい」という気持ちが強くあった。もちろん、夏期講習に参加したり、部活に全力で取り組むということも、今まで部活動に所属したことがなかった私からしたら例年とは違う夏を過ごしていることになると思う。私の気持ちを聞いた祖母の勧めで思い切ってこの楽山派遣に応募し、選考会を経て派遣生になることができた。そして、中国に一週間ホームステイした経験はこれからの私の進路に大きく関わるものだとは当時思いもしなかった。

派遣当日は快晴で飛行機も通常通り飛行でき、無事、成都に着くことができた。到着当日は夜遅く、2日目から樂山市に移動する予定だった。

翌日、数時間バスに乗り、樂山第一中学校につき、ホストファミリーと挨拶を交わした瞬間はきっとこれからも私の心に残り続けるだろう。ペアである志音と私はもちろん緊張していたし、ホストファミリーも緊張していて、全体的にぎこちなさが出ていた。だが、ホストシスターとブラザーの子言ちゃんと子語ちゃん、龍くんがたくさん話しかけてくれたおかげで、少しずつ打ち解けることができた。子言ちゃん達は日本のアニメが好きらしく、会話が盛り上がった。みんなが英語でわかりやすく伝えてくれたため、晩ごはん中だけでかなり仲良くなれた。龍くんとは予定が合わず会える日が少なく、あまり話すことができなかったが、短い時間でも仲良くなろうとしてくれたことが嬉しかった。また、樂山第一中学校の生徒である張くんとはお互いの趣味の話で絆を深めることができた。

視察先では、樂山大仏や石楠花の根で作られた伝統工芸品を見ることができ、想像よりも遥かに大きく日本では見ることができないスケールのものが多くあり、日本よりも大きい国土面積だからこそ大きな建造物や展示を置くことができるのだと思う。歓迎夕食会や、昼食会ではこの派遣という形でないとお会いできないような方々に会うことができ、貴重な体験をすることができた。夕食会で隣に座っていた方と簡単な中国語で会話することができたのは、小さな成長だと感じた。悪天候で峨眉山の途中までしか登れず、予定した地点まで登ることができなかったのが唯一の心残りだ。この心残りは、大人になってから今回の派遣生メンバーで集まってもう一度現地を訪れたときに再チャレンジしたいと思っている。市川市と樂山市が友好都市を結ぶ架け橋となった郭沫若さんが実際に過ごしていた記念館では当時どのような生活をしていたか、日本に来る背景や帰国後の様子、どのような活動をしていたか詳しく知ることができた。

この派遣を通し、中国と日本での共通点や違いを発見することができた。まず、シャワーとお手洗いが同じ空間にあり、外出先のお手洗いではドアの鍵がかからないところがあったり、トイレトペーパーを流すことができないのは日本と大きく異なる部分だ。歓迎夕食会などで、引率者である早坂さんが樂山市の方々に挨拶周りしていた際、一杯ずつ乾杯してい

たことや、グラスが空になるといつの間にか注がれているのは中国での歓迎の仕方だと教えてもらい、このような歓迎の仕方もある点だと思う。しかし、両国とも大事にしていることはおもてなしの精神だ。歓迎の仕方は異なるがおもてなしする精神はとても暖かく、楽山の人々がどのような方たちか感じることができた。

また、相手がどのようなことを伝えたいかを理解するために、言葉が通じなくてもジェスチャーや翻訳アプリを使って100%のコミュニケーションを取ろうとしたことは、内向的な私が自分から話すきっかけとなり、私の将来のビジョンを明確にすることができ、異文化に触れることで視野と価値観が広がった。私にとってこの1週間は大切なメンバーに出会い、新しい友達を作ることができたかけがえのない瞬間だ。現在、私は在外駐在大使館で勤務することを実現できるよう、何を頑張るべきか明確にして、中国語の勉強や学校での勉強に力を入れている。

現在、中国と日本の政治の面では状況があまり良いわけではない。そんな中、暖かく迎えてくださった楽山市の皆様には「ありがとう」「謝謝」という言葉では足りないくらいの感謝でいっぱいだ。また皆さんに会える日が楽しみだ。

謝謝大家的熱情歡迎。期待再次見到大家的那一天。



昼食会



最後に撮った記念写真



はじめまして！！



パンダみたよ

「伝える力」

高橋 碧衣

私は今回、人生で初めての体験をたくさんしました。私はあまり積極的に何かに挑戦したりする性格ではありませんでしたが、今年の春にこのプログラムについて知った時、とても惹かれました。今では思い切ってこのプログラムに応募して本当に良かったと思っています。

樂山市は私が想像していたより自然豊かでゆったりとした素敵な場所でした。そこに住む人達もとても親切で温かく、賑やかで笑顔が素敵でした。ホームステイ先ではとても温かく歓迎していただきました。食事は家族だけでなく親戚も集まり賑やかで、楽しかったです。少し驚いたことは食事の際、知らないお客さんの誕生日を祝いに行ったことです。日本では知らない人の誕生日を祝ったことがなかったので新鮮でした。初めの2、3日はまだ初めての環境や言葉が上手く伝えられないことなどに不安や焦りを感じていました。また、黄梓柔さんや張喜家くんは日本の音楽、キャラクター、俳優などに詳しく驚き、同時に私は中国について全然知らないことに気づき、恥ずかしくなりました。はじめは自信が持てず自分から話しかけることも出来ませんでした。ずっと一緒にいてくれた黄さんや張くんの心遣いのおかげでだんだんと気持ちが軽くなり、最後の方はとても楽しく、時間があっという間に過ぎて行きました。

現地で1番大切だと感じたことはコミュニケーションです。コミュニケーションのとり方は沢山ありますが、言葉で自分の考えを伝えることの難しさを思い知りました。滞在中は自分の言いたいことを上手く英語で伝えられず、もどかしい思いをしました。もっと英語を勉強しておけば良かったと思うことが多くありました。それは日を重ねるごとに、周りの人達と仲良くなるほど思うようになりました。英語を使わなくても現地の人達と交流を楽しむことはできました。でも現地の人に自分の知らないことや物についてすぐに聞けないことがとても悔しかったし、感謝や感動の気持ちを自分の言葉で相手に伝えたいと強く思いました。また、ホームステイ先の家族との食事では周りがほぼ中国語で戸惑いました。滞在中は少しでも使える中国語を増やせるようにバスで調べたり、王さんに教えてもらいました。だんだんと簡単な中国語を使えるようになると、家族のみんなが笑顔になってとても嬉しかったです。樂山第一中学校、馬辺中学校の交流では言葉を使うことが少なくジェスチャーや表情でコミュニケーションをとりましたが、生徒のみなさんと色々な体験を通して仲良くなれて嬉しかったです。また、黄さんの妹の李心顔ちゃんと仲良くなれたことも嬉しかったことのひとつです。コミュニケーションは翻訳アプリを使いました。中国語を教えてもらったり日本語を教えたり、学校の話をしたりと沢山話すことが出来ました。上手いかわなくても理解すること、伝えることを諦めずに会話をしてよかったです。

そして7日間で私の1番の思い出は、黄さんと張くんと咲良ちゃんと4人で夜に樂山の街をまわったことです。お土産を買ったりご飯を食べたりして、友情が深まりました。お喋りをしている時に張くんが冗談を交えていたり、みんなで顔を合わせて思い切り笑ったりした時、自分が相手にとってお客さんでなく友達になれた気がして嬉しかったし、お互いの思いが伝わっているようで感動しました。相手の言いたいことを理解できたのはずっと一緒にいたからこそできたのだと思います。

この7日間で樂山市や中国の文化や人柄、暮らしなどの理解を深めることが出来ました。きっとまだお互いの国について知らないことがあるので色々なことに関心を持ち続け、これからもこの交流を続けたいと思います。また次に樂山市のみなさんに会える時のために、そして他の国の理解も深められるように語学の勉強を頑張りたいと思います。このプログラムに関わり、私達に素晴らしい経験をさせてくれた方々にとっても感謝しています。このプログラムに参加して自分の知らない国について知ることの喜びを感じることが出来ました。この素晴らしい出会いをいつまでも大切にします。本当にありがとうございました。



ホームステイ初日！



夜の街



家族みんなで食べた火鍋



樂山の街並み

「笑って泣いて成長した中国1週間！！」

徳茂 あゆ

私は今年の夏、この派遣を通じて多くのことを学び、自分の世界が大きく広がったと感じました。この派遣が決まったのは6月で、その時に初めて一緒に行くメンバーと顔を合わせました。みんな年齢も学校もバラバラで正直「仲良くなれるのかな…」と不安でしたが、「これから一緒に活動していく仲間なんだ！」と思うと心強さもありました。その後7回のオリエンテーションを通して、日本文化を披露することになり、浴衣を着て「正解」、中国語で「カントリーロード」を歌うことが決まりました。浴衣の着付けや歌の練習をしていくうちに自然と打ち解け、不安は消えていき、気づけばオリエンテーション以外にも集まるほど仲良くなっていました。

また、リーダーを決めるときに思い切って手を挙げたのも大きな出来事です。普段なら「誰かやるでしょ」と他人任せにしていた私ですが、今回の目標は“何事にもチャレンジ”。勇気を出して挙手したら、他に手を挙げる人がおらずそのまま決定！「え、私で大丈夫??」と不安でしたが、なった以上は全力で頑張ろうと思いました。

そしてあっという間に出発の日が近づき、8月17日当日。朝からソワソワで「やっとこの日が来た〜！」という気持ちと「本当に中国行くんだよね？」という気持ちが混ざっていました。市役所に集まるとみんな大きなスーツケースを持っていて、一気に実感が湧きました。家族にバイバイしてバスに乗った時は少し寂しかったけれど、楽しみの方が大きかったです。空港までは「中国で何するんだろう」「忘れ物ないかな」など話しながらワクワクが止まらず、手荷物検査や両替をしていたらあっという間にフライトの時間に。飛行機に乗るのは7歳以来でほぼ初めてだったのでめっちゃめっちゃドキドキしました！機内では友達とゲームのスコアを競ったり機内食を食べたりしていたら5時間が一瞬で過ぎていました。

中国に到着した時は「日本とあまり変わらないな、本当に中国に来た？」と思いました。が、入国審査の時に中国語で話された瞬間に「うわ、本当に中国だ！」と実感しました。ホテルは空港近くだったのでその日はまだ中国らしさをあまり感じられなかったのですが、翌日バスに乗った時に一気に窓から見える街並みは看板が全部中国語で「ここが中国なんだ」と感じさせられました。さらにクラクションが絶えず鳴っていて、5秒に1回くらい聞こえてきてびっくりしました。こうして約1週間の中国での生活が始まりました！正直どの出来事も思い出が濃すぎて全部書くとキリがないのですが、特に心に残ったことを紹介します。

まずは中国といえばやっぱりパンダ！私は一度も生で見たことがなかったので、今回が初めてで本当にワクワクしていました。実際に目の前でパンダを見た瞬間「うわ、可愛すぎる」と声が出てしまうくらい可愛かったです。のんびりしている姿が可愛くてずっと見ていたくなりました。

次に私の心に強く残っていることは、初めて現地でホストファミリーに会った時です。最初、学生のみさんと顔を合わせた時はめちゃくちゃ緊張していましたが、ジェスチャーや簡単な中国語、そして翻訳アプリを使って会話していくうちにだんだん打ち解けていけて、文化や習慣の違いを肌で感じることができました。家族の皆さんもとても優しく迎えてくれました。夕食のときに「中国で何か食べたい物ある？」と質問してくれて、「火鍋が食べてみたいです」というと夜ご飯に連れて行ってくれました。そこで日本と中国の文化の違いや辛いものチャレンジなどをしてグッと距離が縮まりました。お土産で日本のお菓子を持っていたらとても喜んでくれて、私たちにも中国のお菓子をくれて、それを食べながらみんなで話したことがとても楽しかったです。言葉が完璧に通じなくても、笑顔やジェスチャーで気持ちが伝わることを実感しました。

最後に大きな思い出になったのが、みんなで準備してきた発表です。浴衣を着て日本文化を紹介するために、日本で有名な「正解」と中国語で「カントリーロード」を歌いました。本番前は「失敗したらどうしよう」と緊張でいっぱいだったけれど、皆さんが笑顔で手拍子やリズムにのってくれて楽しく歌えました！歌い終わった時に大きな拍手をもらえて本当に嬉しかったです。準備の大変さも一気に吹き飛んで、「やってよかった！」と心から思いました。

他にもたくさんの経験や体験をさせていただき、一生の宝物になりました。この派遣を通して、勇気を出してチャレンジすることや、文化の違いを受け入れる大切さ、仲間と協力して生活することなどを学びました。全部が新鮮で、全部が忘れられない経験になったと思います。今回の出会いや体験はこれからの学校生活や自分の将来の夢などに活かしていきます！！本当に楽しい一週間でした♡



藍染め体験



馬辺イ族の民族衣装



一緒に活動したペアの子たち



ホストファミリーと

「濃密で充実の7日間」

橋詰 彩花

私は市川市青少年代表団の一員として友好都市樂山を訪れました。中国へ渡航、ホームステイも初めての経験で、ホストファミリーは優しいだろうか、中国人は主張が強く怖い人が多いのではと考えていて、緊張と少しの恐怖がありました。そんな不安を全く感じさせないほど樂山市の方々が熱烈に温かく迎え入れて下さり嬉しく思いました。

この国際交流を通じて沢山の事を感じ、考え、学びを得ました。滞在中、身近で密に交流したホームステイ先の万十毓さん（高3）御一家（家族構成は父、母、弟の4人）の心のこもったおもてなしに私の心は温かくなりました。十毓さんは優しくて勉強熱心、英語はペラペラで懂れてしまうほどでした。お父さんは日本に関心を示して下さい、英語で沢山質問（「日本語でいただきますはなんて言うの」や「窓際のトットちゃんという本を知っているよ」等）をしてくれたり、いつもニコニコしながら写真撮影してくれました。お母さんは中国料理を何品も作って下さりどれもとても美味しかったです。明るい振る舞いや細やかな気配りのおかげで快適でした。弟さんは卓球、トライアスロン、バスケットボールが得意でスポーツ万能。夜、御一家と一緒にグラウンドで運動した際にマラソン対決しましたが、完敗。体力の違いを感じました。中国では放課後も学校で勉強してから帰宅、帰宅後は外で運動する習慣もあるため日常ではなかなかテレビを見る時間が持てないと話していて、自身の時間の使い方について考えさせられました。きっと私より沢山の時間を勉強や体力作りに費やしているのだと思い、2人の英語能力を羨ましく思うと同時に見習わなければと思いました。

中国でホームステイをして、日本の良さを実感する出来事がありました。シャワーを使用していると、水量が安定していなかったり、水温が下がったりする事が多々あり、水洗トイレではペーパーは流す事が出来ずに不便を感じました。日本はそういった事には困る事はないため感謝の気持ちがわきました。また、中国の街並みや観光名所、世界遺産を訪れた際には目に映るものの全てが新鮮、刺激的でワクワクでした。中国料理屋、スーパーマーケット、屋台など様々な場所にも行きました。初の本場の中国料理、ハイレベルの美味しさ、ボリュームも満点で初めて食べる料理も沢山あり大満足でした。スーパーマーケットでは日本ではあまり見かけないフルーツの多さや安さに驚かされ、食材の他にもお土産、家具など沢山の売り場がありました。

景勝地見学として樂山大仏、峨眉山なども訪れました。写真で見ても想像していたものと雰囲気まるで違いそのスケールの大きさは圧巻でした。また、体験学習としてイ族の伝統衣装着用や伝統の刺繍や銀飾り製作をしたり、太極拳を習ったりして、異文化の魅力を感じられました。ホームステイ、体験学習や樂山第一中学校の生徒さんとの交流などを通じ関わった方々は、荷物を持ってくれたり、困っているときにはすぐに手を差し伸べてくれるなど積

極的にコミュニケーションをしてくれました。また常にその場に応じた様々な説明をして、質問にも丁寧に答えて下さり、中国の理解がより深まりました。

最終日のお別れの際はみんなで大泣きするほどに名残惜しい気持ちになりました。中国は情報統制が厳しいと聞いていて、情報の真偽がわからないため怖いと思っていたのですが、中国は日本と変わらず親切で優しい人が多く中国に対する誤解が解けた事がこの国際交流で1番印象深く大きな収穫でした。今の時代、他国の情報はインターネットで収集して知ることが可能で便利ではありますが、それが全てではない、誤解を生じることが多々あるということのを再認識し、リアルにふれあい、互いに知る努力をして理解し合う重要性を学びました。また、言いたいことがすぐ出て来ずにもどかしい思いをしたり、ニュアンスの違いから相手を混乱させてしまうこともあったため、自身の英語力をあげたいと強く感じました。次回、楽山の皆さんとお会いする際には今回よりも沢山お話しできるように頑張ります。

44年もの長い年月続いている楽山市との友好を絶やす事なく、来年、市川市にお迎えする際には私が受けたおもてなしのお返しをすることや、国際交流協会主催の様々な活動にも積極的に関わりながら友好関係を築いていきたいと思います。最後になりますが、この派遣に関わって下さった全ての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。とても楽しく学びのある時間でした。



舞台セットの様な美しい繁華街



たくさんの高層マンション



お手頃なフルーツ



存在感のある岷江



樂山市を流れる大渡河（だいとが）と奥に見える樂山大仏

2025 年度市川市青少年代表団

樂山市派遣生文集

発行日：2025 年 10 月 25 日

発 行：市川市国際交流協会

編 集：市川市国際交流協会

市川市文化国際部国際交流課

遠遠的街灯明了、好像閃着無數的明星。

（遠くに見える街明り、まるで無數の星のようにきらめく。）

天上的明星現了、好像是点着無數的街灯。

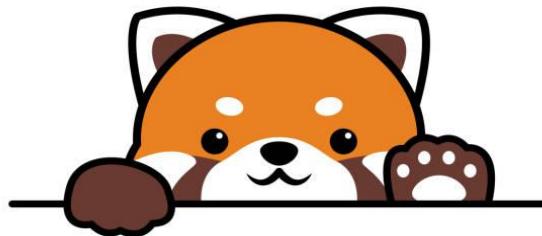
（天上の明星が現れ、まるで無數の街灯が点滅しているようだ。）

我想那縹渺的空中、定然有美麗的街市。

（私は想う、あの遠くかすかな星空に、きっと美しい街があるはずだ。）

出典：郭沫若「天上的街市」1921 年

Ichikawa Youth to Leshan 2025



市川市国際交流協会

Ichikawa International Exchange Association(IIA)